

小学校第3学年

総合的な学習の時間「わたしたち後めんの町を守ってもり上げ隊 ～防災編～」

1. 育成を目指す安全に関する資質・能力（児童が自ら命を守るために必要な知識・技能）

3学年の総合的な学習の時間の目標は、地域の良さを守るための人々の工夫や努力を知り、地域の一員として自分にできることを考え、行動することができる。

本単元の目標は、地域防災の視点で、地域を見つめ、地域の人々に支えられていることを知り、自分の命を自分で守ることであるが、そのことを学校のみならず保護者、地域全体に広げられるように発信することをゴールとした。そのために、地域の方に多く出会わせたり、地域の避難所を探検し地区の防災対策を見聞きし確かめたりする活動を通して、課題設定をし、追究する力を高めていった。

校区内には、5か所の指定避難所があり、整備し安全管理されている。しかし、そのことに気づいていない児童もいる。そこで、地域の防災担当の方から話を聞き、課題意識を持たせることからスタートした。

また、地域の人や防災意識についてインタビューやアンケート等で調べる活動を通して、地域のために自分たちにできることは何かを考え、自分の命をまもるために主体的に判断し、地域社会の安全に貢献する心を育てることができると思い、この単元を設定した。

本単元を通して、地域の人々とのつながりを深めながら、南海トラフ地震に対する防災意識を高め、自分の命を守るために状況を適切に判断して自ら行動しようとする態度を育てたいと考えた。

2. 目標

○知識及び技能

【課題を設定する力】地域の防災担当の方や地域の人々に取材し、地域の防災担当の方の願いや地域の人々の防災意識を知り、自分なりの学習の課題設定ができる。

○思考力・判断力・表現力

【課題を解決する力】地域の防災担当の方の願いや地域の人々の防災意識について知り、自分にできることは何かを考え、まとめることができる。

【伝え合う力】地域の防災力を高めるために自分たちができることを考え実践したことや調べたことをまとめ、地域の方に工夫して伝えることができる。

○主体的に学習に取り組む態度

【自分の生き方を考える力】地域の防災担当の方の願いや地域の人々の防災意識について知り、地域のために自分にもできることは何かを考え、地域の一員としてかかわろうとすることができる。

3. 教科・領域とのつながり（教科等横断的な視点でのカリキュラム）

①学級活動「図書室で地震が起きたら」

学級活動の時間、地震が起きたときの図書室の状況がわかる写真を見たり、図書室に行き危険な場所を見つけたりする中で、「自分の身を安全に守るためにできることは何か」を考え避難訓練を行った。

授業後は、「危険な場所にマークを作って貼って知らせる。」「学習した内容を本にまとめる。」「おうちの人に学習したことを話す」等、児童は自己目標に書いたことを実践することができた。

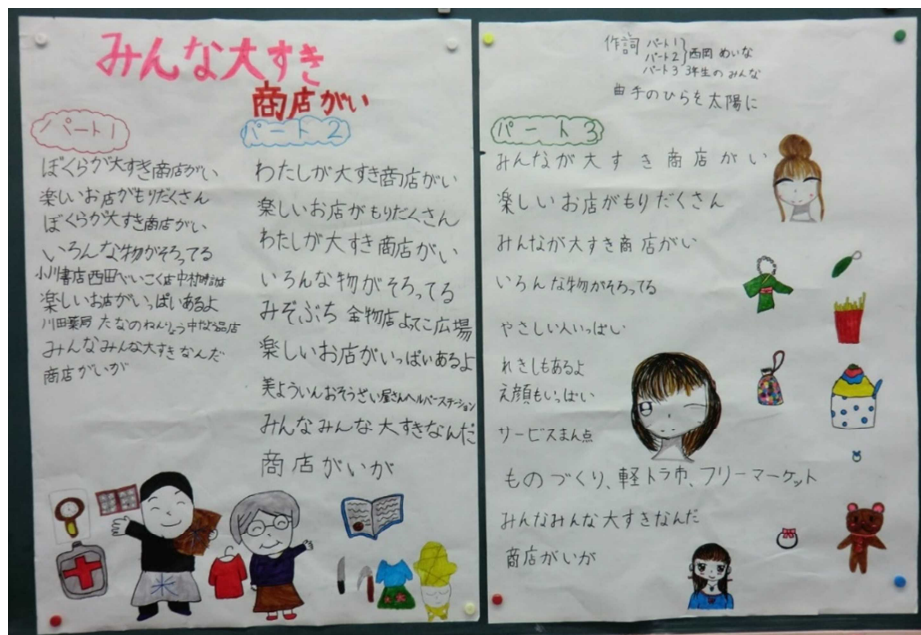


ら、「今あるお店のレジの横に、お菓子をおくといい。」ということになった。さっそく、商店街の中にある『よってこ広場』で働いている地域おこし協力隊の人々にそのことを伝えに行くと「いい考えですね。考えてみます。」と言ってくださり、子どもたちも喜んでいた。

次に、ポスター作り。ポスターを作ることを公民館館長さんに伝ええると、「ポスターを作ってくれるのは嬉しいですね。地図も入れてくださいね。」と言われた。子どもたちは、その話を聞き、社会の時間に作った絵地図を見ながら、ていねいに地図をかいていた。キャッチコピーを考える時には、一人一人がふせんにたくさん考えを書き、1番いいキャッチコピーを選んだ。アンケート結果の、「シャッターがたくさんにしまっているから嫌い」ということから、『守ろうよ これ以上 シャッターしまらせない』というキャッチコピーを考えているグループもあった。

商店街に描いたポスターを持っていくと、どのお店の方も「上手やねえ。」とほめてくださり、すぐにお店に貼ってくれたので子どもたちは、「描いて良かった。」と達成感を味わっていた。

商店街の歌作りでは、本校の卒業生である「やなせたかし」さんがつくった『手のひらを太陽に』の曲を使うことにした。歌詞には、商店街のお店の名前も入れて、振付も考えた。



※ポスターや歌は、防災の学習会で発表した。

4. 単元構想

次	○学習内容（時数）	評価					
		設	解	伝	自	評価規準	評価方法
第1次 出会う （4時間）	白木谷小の防災の取組を聞いた り学級活動で学んだことを発表 したりする。 （2時間）			○		・これまでに学習し てきたことを白木 谷小の友だちに向 けてわかりやすく 伝えようとしてい る。	観察，発 言
	地域の防災コミュニティーセン ターへ行き，現在行っている防災 の取組や課題について地域の防 災担当の方から話を聞く。（2時 間）	○				・地域の防災コミュニ ティーセンター で現在行っている 防災の取組や課題 について地域の防 災担当の方から話 を聞き，自分なり の課題を見つける ことができている。	観察，発 言， ノート， ワークシ ート
どうして、防災の学習会に参加する人が少ないのだろう。							
第2次 調べる （5時間）	理由を調べるための方法や内容 について話し合う。（1時間）	○				・理由を調べるため に，これから誰に， 何を使って，どん なことを調べたら よいか考えること ができている。	観察，発 言， ノート， ワークシ ート
	商店街に行き，お店の人やお客さ んなど地域の人に防災意識につ いて調査する。（2時間）		○			・地域の人に積極的 にかかわりながら 話を聞き，防災意 識について情報を 収集している。	観察，発 言， ノート， ワークシ ート

	調査結果からわかった理由や課題を整理し,今後の学習の課題設定をする。 (1時間)	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題にそって,書籍などを活用しながら調べたり,地域の方に話を聞いたりして防災対策についての情報を収集している。 ・自主防災会の方に積極的にかかわりながら話を聞き,地域の防災活動の取組に関心を持つことができています。 	観察, 発言, ノート, ワークシート
	調査結果から学習会へ参加したときにやりたいことや発表したい内容を考える。(1時間) 本時9 / 18			○	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果や地域の人たちの思いと結び付けてやりたいことや発表したい内容について考えることができています。 	観察, 発言, ノート, ワークシート
第3次 まとめる (5時間)	発信したいテーマを選び,「命を守る防災BOOK」や書籍などを活用しながら防災に対する備えについて調べ,研究レポートにまとめる。(2時間)		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題に沿って,書籍などを活用しながら調べ,防災対策についての情報を収集している。 	観察, 発言, 研究レポート
	同じテーマのグループの友達と調べたことやこれまで学習したことをもとに伝える内容や伝える方法について話し合い,準備をする。(3時間)			○	<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識をもって再度情報を収集し,わかりやすくまとめようとしている。 	観察, 発言 ワークシート
第4次 発信する (4時間)	学習会に参加し,地域の人に向けて方法を工夫しながら表現し発信する。 (3時間)	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに取り組んできたことやわかったことを地域の人に向けてわかりやすく伝えようとしている。 	観察, 発言, ノート, ワークシート
	学習会の参加者の感想やこれまでの取組を振り返り,自分たちの変容を振り返る。(1時間)			○	<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識を持って再度情報収集をし,分かりやすくまとめようとしている。 	観察, 発言, ノート, ワークシート

出会う

①白木谷小の防災の取組を聞いたり学級活動で学んだことを発表したりした。(2時間)

社会見学で、これまでお互いの地域の自慢ブックを交換することで交流していた白木谷小学校を訪れ、1学期に学習した防災の内容を発表し合った。

②地域の防災コミュニティーセンターへ行き、現在行っている防災の取組や課題について地域の防災担当の方から話を聞いた。(2時間)

現在行っている防災の取組や「学習会への参加が少ない。」という課題について地域の防災担当の方から話を聞いた。その話を聞いたある児童が、「命を守る大切な学習会に、参加が少ないのはなぜなのか。このままではいけない。これまでお世話になってきた商店街の人たちにも、たくさん参加してもらいたい。学習会へ参加する人たちを増やすために自分たちにできることはないだろうか。」ということをもみんなに提案した。話し合いの中で、「学習会に自分たちが参加者をしてはどうか。」という意見が出た。その意見を聞いて、「子どもが学習会に参加したら、人が集まると思う。」「防災会の会長さんも喜び、自分たちも嬉しい。」「わたしたちも楽しい。」「これまでの学習会に参加したことのない人は、防災コミュニティーセンターのかぎのことを知らないと思う。かぎのことも知ってもらえると思う。」と、全員が賛成。後免町防災会のみなさんとのコラボで、学習会をひらくこととなった。学習会の名前もみんなで話し合い、『楽しく学べる防災フェスタ』となった。



調べる

③学習会に参加しない、参加できない理由を調べるための方法や内容について話し合う。(1時間)

防災意識や学習会に関することについて、保護者やこれまでの学習でお世話になった商店街の人たちに学習会のことを知っているか、参加できない理由、学習会でしてほしい内容などを聞くアンケート調査を行った。

④商店街に行き、お店の人やお客さんなど地域の人に、防災意識について調査。(2時間)

忙しいにもかかわらず、どのお店の方も丁寧に話をしてくださり、学習会の内容を考えるヒントをたくさん得ることができた。また、学習会を予定していることを伝え、「日時が決まったら参加をしてほしい。」とお願いした。

⑤調査結果からわかった理由や課題を整理し、今後の学習の課題設定をした。(1時間)

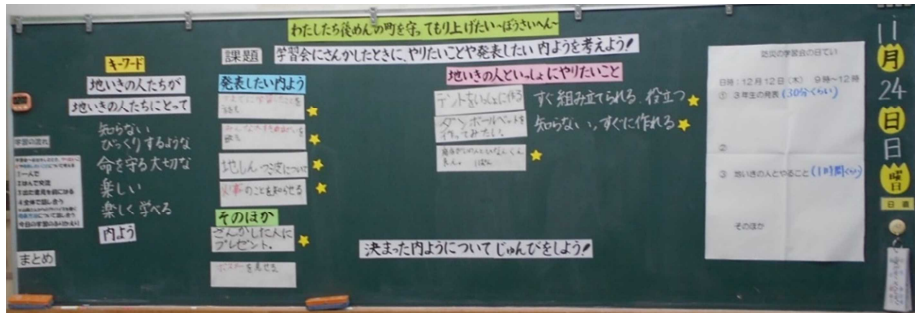
⑥調査結果から学習会へ参加したときにやりたいことや発表したい内容を考える。(1時間)

地域の防災会会長から「3年生のみんなが学習会に参加してくれると聞いて嬉しいです。今日は、地域の人たちが参加してよかったと思えるような内容を考えてくださいね。」というビデオレターが届いた。視聴した子どもたちは、身を乗り出して嬉しそうに会長の話を聞いていた。

次に、発表したい内容ややりたいことを付箋に書き、その後、班になり自分が書いた考えと理由を述べ、意見をカテゴリー分けた。グループから出てきた意見を全体で話し合い、「テントや段ボールベッドを組み立てたい。」という意見が出た時には、グロスターの防災会副会長に聞き、その場で了解を得ることができた。



「ぼくたちが作った商店街の歌を歌う。」「おみやげを用意したら参加が増えるのではないかな。例えば、防災食とか。」という子どもらしいユニークな考えも出た。そのことも防災会副会長にお願いすると、「防災食の試食やお土産の用意については、市の危機管理課と相談してみる。」ということだった。地域の人々が楽しく防災のことを学べるように、みんな一生懸命考えていた。また、当日は5年生も参加し、『防災ものづくり会社のおすすめ商品の紹介』をしてもらえることになった。



まとめる

- ⑦学習会で発信したいテーマを選び、「命を守る防災BOOK」や書籍などを活用しながら防災に対する備えについて調べ、研究レポートにまとめた。(2時間)
 - ⑧同じテーマのグループの友達と調べたことやこれまで学習したことをもとに伝える内容や伝える方法について話し合い、準備をした。(3時間)
- 南海トラフ地震について調べたグループは、地域の人々のアンケート結果を見て、地域の人々が知りたい内容をクイズ形式にして参加して下さった方にわかりやすく伝えようと工夫していた。

多くの人に参加してもらうために自分たちがこれまで取り組んできたことや思いをリーフレットにまとめるグループもあった。できたリーフレットは、みんなで手分けし商店街や保護者に配布した。



防災フェスタの1週間前、商店街にリーフレットグループが作ったリーフレットを渡しに行くと、どのお店の人も、「リーフレットのイラストがすごく上手!」とほめてくれていた。多くのお店の人から「参加するね。」という嬉しい返事をいただくこともできた。

発信する

- ⑨学習会に参加し、地域の人々に向けて方法を工夫しながら表現し発信。(3時間)

〈学習会の流れ〉

はじめのことば

なぜ、自分たちが『楽しく学べる防災フェスタ』を考え、参加しようと思ったのか、その理由をわかりやすく伝えるために、何度もはじめのことばの原稿を推敲していた。担当になった子どもは、「ぼく、全部覚える。」と言って休み時間や放課後も繰り返し練習し、自信をもって言うことができていた。終わった後は、クラスのみんなから「すごかった。」とほめられ、発表した児童は照れながらも嬉しそうにしていた。

防災コミュニセンターへ見学に行ったとき、防災会会長の溝渕さんが「防災の学習会の参加者が少なくて、悲しい。」と言っていました。それを聞いたAさんが「大好きな商店街の人たちの命を守る学習会に私たちも参加をしてはどうか。」とみんなに提案してくれました。その提案を聞き、クラスのみならず「子どもが参加したら、参加したい人が増えるのではないか。」と賛成しました。そこで、会長さんをお願いし、防災フェスタを開いてもらうことにしました。今日は、名前の通り楽しく学べる学習会にしましょう！

(はじめのことばの一部抜粋)

防災会会長さんの話

地域の防災会、市の危機管理課の方々、前日のリハーサルから準備をしてくださり、子どもたちの練習も見てくれていた。子どもたちとコラボした防災フェスタが実現したことを、本当に喜んでくださり、話の中で子どもたちにそのことを伝えてくださった。

また、防災会会長さんは、学習会のことを地域の回覧板で知らせてくださり、平日にもかかわらず、たくさんの方が参加をしてくれた。



3年生の発表

3年生の発表では、図書室や給食の時間での身の守り方等、学習した内容を参加者のみなさんに伝えた。参加者は、うなずきながら熱心に聞いてくださった。クイズ形式で発表したグループは、地域の人たちだけでなく5年生や校長も楽しんでくれている様子を見て、「本当に楽しく学べる防災フェスタになった！！」と喜んでいました。

防災について発表した後、グループごとに商店街を盛り上げるポスターを見てもらった。

商店街の人は、みんなやさしいです。「大好きな商店街へたくさんの人に来てもらいたい」という思いを伝えたくて、『笑顔いっぱい みんな大好き 商店街』というキャッチコピーを考えました。



最後には、みんなで作詞した『みんな大好き商店街』の歌を楽しい振付きで発表した。子どもたちが考えた歌詞の中に、自分たちのお店の名前も出てくるので、商店街の人たちは、歌を嬉しそうに笑顔で聞いてくださった。



5年生の発表

3年生の発表の次は、子どもたちが楽しみにしていた5年生の『防災ものづくり会社のおすすめ商品の紹介』。自分の好きな生地で作った『おしゃれなくろしお防災リュック』の紹介もあり、「買いたい。」という感想を言う児童もいた。防災ボックスのコーナーでは、四コマ漫画を使っの説明もあり、グラグラと揺れる場面では画用紙を実際に揺らしているのを見て、「さすが、5年生。発想がすばらしい！」と感心していた。参加者の中には、メモをとりながら5年生の発表を聞いてくださっている方もいた。



地域の人々とやること

防災フェスタの第2部は、地域の人たちと一緒に体験しながら学ぶ内容。まずは、段ボールベッドの組み立て。防災会の方々がステージに立ち組み立て方をわかりやすく教えてくれた。子どもたちは、アルファベットで書かれた段ボールの部品を、地域の人々に手伝ってもらいながらはめこんでいった。アルファベットは、外国語活動の時間に学習していたので、「RBの段ボールを持ってください。」と説明されても、すぐに持つことができていた。組み立てる前には、「どうやって組み立てたらよいか。」不安に思っている子どももいたが、わからないときには、地域の人々がやさしく教えてくれたので、「思ったより、早くできた。」「地域の人々が手伝ってくれたから、上手にできた。」と喜んでいった。出来上がった後は、「ぼく、寝相が悪いき、落ちるわ。」とか、「かたいけど、床よりはいいよね。」「かたいき、何かしかんといかんね。」と言いながら座ったり、寝転がったりしていた。



次は、テント。テントの張り方も防災会の方々が、講師になって教えてくれた。テントを袋から取り出して、広げたときは、地域の人と一緒に「大きいね。」と話をしていた。穴の部分に棒を入れていくとテントの形が徐々にでき、完成した後は、実際に入って大はしゃぎしていた。



防災食の試食

学習会の内容を考える授業の中で出た、子どもの意見を聞いていた副会長さんが、市の危機管理課の方に話をしてくださり、防災食の試食とおみやげが実現した。意見を出した子どもは、「先生、ぼくの夢がかなった！！」と本当に喜んでいった。非常用のご飯は美味しく、おかわりをする子どもがたくさんいた。ミレービスケットも「スーパーのとは違う。おいしい。」

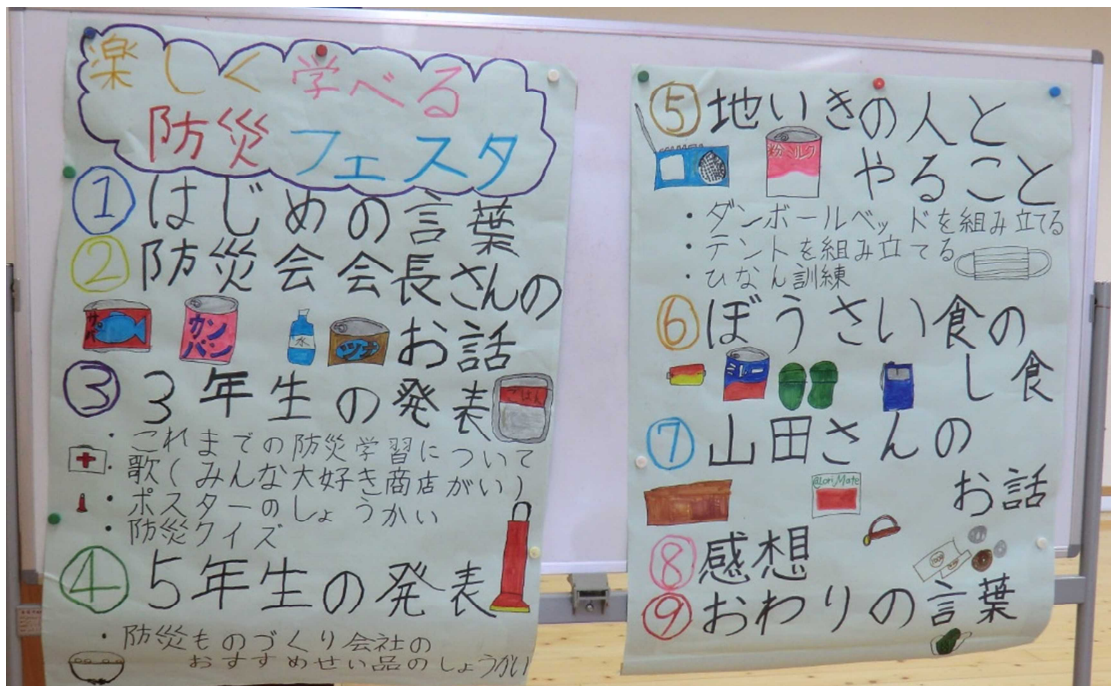
と言いながら食べていた。



ご飯、おいしい！
おかわり、
ほしいです！

避難訓練と危機管理課の方の話

最後は、みんなで避難訓練。子どもたちは、すばやくダンゴムシポーズをとることができた。地域の人たちも、一緒にダンゴムシポーズをとった。危機管理課の方からは、「ダンゴムシポーズは、横にころころと転がってしまうので、最近では、ピラミッドのポーズをおすすめしています。」と、床につける両肘を肩幅程度にあけて、転がらないようにするポーズを教えてもらった。



⑩ 学習会の参加者の感想やこれまでの取り組みを振り返り、自分たちの変容を振り返る。(1時間)

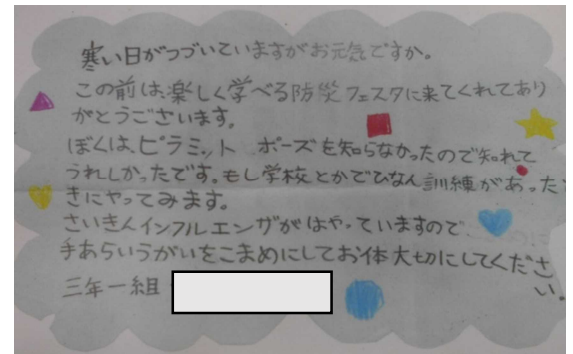
5. 成果

○避難訓練の際には、避難行動に対する児童の意識に変容が見られ、緊急地震速報への反応が一段と速くなり、素早く机の下で身を守る行動をとったり、教えてもらったピラミッドのポーズをとったりすることができるようになった。

南国市危機管理課のみなさんへ

ぼくはピラミッドポーズを知らなかったので知れてうれしかったです。もし、学校とかでひなん訓練があったときにやってみます。

(参加してくださった人へのお礼の手紙 一部抜粋)



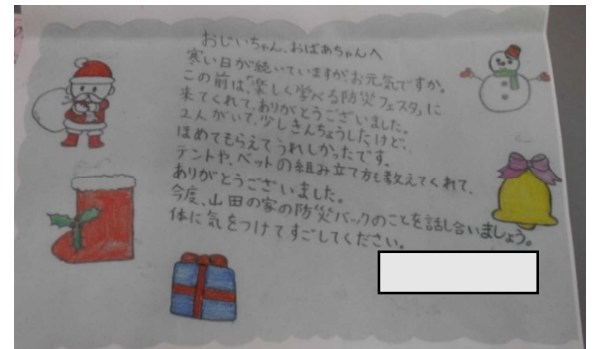
○3年生の5月に実施した防災意識調査アンケートでは、「地震の備えの準備をしている」が5% (1/22人中)であったが4年生の8月に実施したアンケートでは、55% (12/22人中)になり、児童の防災意識の高まりが、家庭の防災力の向上につながった。

おじいちゃん おばあちゃんへ

テントやベッドの組み立て方を教えてくれて、ありがとうございました。

今度、山田の家の防災バックのことを話し合います。

(参加してくださった人へのお礼の手紙 一部抜粋)

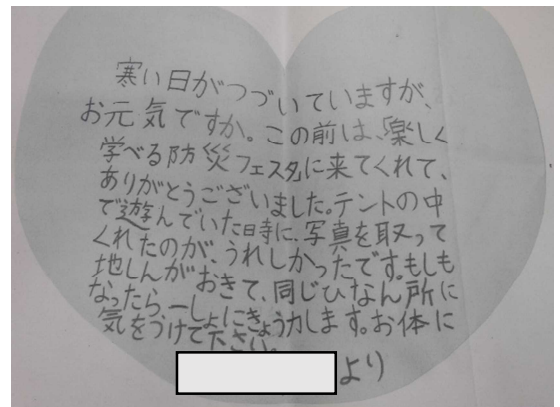


○地域に何度も足を運び、地域や関係機関の方々と出会い、課題を発見し、その課題解決に向けて自分たちに何ができるのかを考える中で、児童の意欲・関心が高まり、より主体的な学びへと発展させていくことができた。また、家庭や地域の方々を思いやり、みんなの安心・安全のために貢献しようとする態度を育むことができた。

自主防災会 副会長さんへ

テントの中で写真をとってくれたのが、うれしかったです。もしも、地しんがおきて、同じひなん所になったら、一しょにきょう力します。

(参加してくださった人へのお礼の手紙 一部抜粋)



- ・3年生、5年生ともに内容の濃い発表でした。防災についての知識が深まりました。地域の方もいろいろと協力してくださり、テントの組み立て、防災食の試食などありがとうございました。本当に充実した内容になっていました。
- ・後免のコミュニティーセンターに、初めて来ました。リーフレットをもらったので、ぜひ行きたいと思っていました。みなさんの勉強がみなさんのお父さん、お母さん、地域の方に影響があることを願っています。
- ・すごくこわいけど、地震が来ると言われているから自分の命をしっかりと守っていきましょう。
- ・みなさんがたくましいのにびっくりしました。これからもしっかり防災の勉強をしてがんばってください。
- ・商工観光課で仕事をしています。自分たちも後免の町が元気になるようにするには、どうしたらいいかを考えています。ポスターも作って、歌も作って、地域をしっかりと自分たちの目で見て学習されているんだとわかって、すごく感動しました。今日の防災学習会で、みなさんと勉強したことは、ここにたくさんの人々が避難して来たときに役に立つと思います。段ボールベッドやテントも、大人のぼくたちがほとんど何も手を加えることなく、組み立てていました。実際に地震が起こったときに、段ボールベッドなどを組み立てることは、まちがいなく避難してきた人たちに感謝をされることです。みなさんががんばってやってきたことは、確実にみんなを助けることにつながります。これからも一緒に後免の町を盛り上げていきましょう。

(防災フェスタに参加してくれた地域の方々の感想を一部抜粋)